

1 課題 「地域資源を活かした関係人口の創出」

2 連携機関名 垂水市（企画政策課）

3 課題解決に向けた目標・取組等

○目標 学生が大学で学んだ知識、現地での地域活動の中で得られた体験・学びを基に連携事業を実践し、垂水市の魅力を発信、関係人口増加につなげる。

○取組 既存の特産品（つらさげ芋）を利用したメニューの開発
垂水市公式ゆるキャラ「たるたる」のグッズ開発
垂水千本イチョウ等観光資源のPR ほか

4 取組実績（実施日・目的及び内容・場所・参加者等）

4月11日 取組に係る支援業務委託の提案（本学）

垂水市担当者1名、教職員3名、総広2名

8月25日 今後の連携活動に関する協議（本学）

垂水市担当者2名、教職員4名、総広2名

9月19日 連携活動に向けた垂水市役所及び大野地区訪問と交流（垂水市役所ほか）

垂水市長、垂水市担当者、教員2名、学生16名、総広1名

10月7日 KYT秋フェス in イオンモール鹿児島に垂水市特産品出展（鹿児島市）

垂水市担当者1名、教員1名、学生5名、総広1名

10月19日 インフルエンサーによるSNS講座（本学）

垂水市担当者1名、SNS講師2名、本学教員1名、学生11名、総広1名

11月25日 フィールドワーク・つらさげ芋産地大野地区地元の方との交流、観光資源PR動画かごピタ収録（垂水市ほか）

垂水市担当者1名、教員2名、学生12名、総広1名

12月16日 「たるたる」グッズ商品開発プレゼン及び検討会、視察ほか（垂水市）

垂水市担当者、教員1名、学生9名、総広1名

2月23日 「かじょたるマルシェ」つらさげ芋を使用した商品の試食会（垂水市）

垂水市担当者1名、教員2名、学生14名、総広1名

2月29日 令和5年度「地域連携会議」当該年度活動報告・評価、次年度計画確認等

垂水市他、本学との包括連携先：3自治体及び1団体より計6名

学長、副学長、教職員8名

3月19日 令和5年度の連携事業に係る報告及びフィードバックほか（垂水市）

垂水市長、副市長、教育長、水産商工観光課、企画政策課

教職員4名、学生8名、総広1名

5 連携事業の効果と評価について

(1) 参加した学生全員が、本事業を通して垂水市との関係を構築しながら、地域に関する知識を獲得しつつ地域活性化事業に取り組んだことにより、地域貢献に資する人材育成の一助となった。

(2) 垂水市長をはじめ、行政自治体の長を務める人々の前でプレゼンや報告会を行うなど、学生が普段体験できない機会を提供することができ、大学で身につけた能力を実践の中で高めることができた。

(3) 大野地区の人々との交流等を通して、地域の特産品について知識を得るとともに、地域社会の一員としてのローカルアイデンティティを自覚する契機を与えることができた。

(4) 学生たちが垂水市の特産品を用いた商品開発に取り組み、テレビや SNS 等各種メディアを通して垂水市の魅力を発信することにより、鹿児島女子短期大学と垂水市の両者を PR することができた。

6 総括

人口約 59 万人の鹿児島市と、約 1 万 3 千人の垂水市における人の往来は、圧倒的に後者から前者に向かう流れが多く、鹿児島市近郊に住む学生の多くは、垂水市との関係が希薄である。地域内における人の移動の不均衡さが課題となっている中、鹿児島女子短期大学と垂水市との「地域資源を活かした関係人口の創出」を目的とする連携活動に、教養学科 11 名の学生と食物栄養学専攻 7 名の学生たちが参加した。前者は垂水市の公式ゆるキャラ「たるたる」のグッズ開発及びメディアを通じた垂水市の魅力発信に取り組み、後者は垂水市大野地区の特産品である「つらさげ芋」を用いた商品開発に取り組んだ。

上記の取り組みの中で、学生たちは合計 5 回に渡り垂水市を訪れ、目的を達成するための活動を行った。学生たちは、活動を通して垂水市についてのさまざまな知識を得ると同時に、地域の人々との交流を深め、自らが居住する場所以外の県内地域と携わることで、ローカルアイデンティティを自覚するきっかけを得ると同時に、地域が抱える課題についての理解を深めることができたと言える。また、テレビや SNS 等のメディアを通して地域の魅力を発信する活動によって、参加した学生の友人・知人などを中心として情報が波及し、持続的に垂水市の観光資源について PR できる結果に結びつけることができた。

7 今後の改善内容及び展開

本連携活動事業は次年度においても引き続き継続される予定であるため、今年度の活動を振り返り、改善した上で展開していきたい。学生からのフィードバックからは、特に活動目的の一貫性や活動成果が若干曖昧であった点が指摘されている。また、計 5 回の垂水訪問では、せっかく移動したのに比較的活動内容が希薄と感じられるものもあったようである。こうした学生の意見から、次年度においては活動目的を明確に定め、垂水市を訪れる際の活動をより有意義なものにしていけるよう改善したい。